

令和6年度 園内研修報告書

テーマ

園児が遊びこむための環境構成や援助の工夫について
～地域素材の活用を通して～



園内研修メンバー

園長	屋比久 守	主幹保育教諭	與那覇 汐里
保育教諭	3歳児担任	・新垣 大貴	
	4歳児担任	・島袋 七海	
	5歳児担任	・野原 ちあき	・金城 早希
		・大城 早苗	・有銘 兼哉
		・外間 菜子	・知念 茜

公私連携型認定こども園 玉城こども園

目 次

- 1 テーマ設定の理由
- 2 研修の目標
- 3 研修の方法・内容
- 4 園内研修年間計画
- 5 構想図
- 6 研修の実際
 - 事例①「わらべ歌遊び」
 - 事例②「草花遊びを楽しもう」
 - 事例③「お米作りに挑戦しよう！」
 - 事例④「みんなで綱引きをやりたい！」
- 7 成果・課題・改善策

幼児が遊びこむための環境構成や援助の工夫について ～地域素材の活用を通して～

I テーマ設定の理由

近年、我が国ではグローバル化、情報化、社会の利便性、自然環境の減少等、身近な環境が著しく変化している。また、体力の減少や自然との触れ合いが少なく、室内遊びを好む子が増えつつあり、園児の経験に偏りが見られる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章「幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本」に乳幼児期の教育及び保育は「環境を通して行うものである」とあり、第2章第4節「環境」の領域の中で「環境に対して、親しみ、興味を持って積極的に関わるようになることが大切である。」と述べられている。このため、保育教諭は園児が環境に関わる中で、発見や面白さに気づき、学びに繋がるよう援助を工夫する必要がある。

園児の実態として、身近な植物の世話をしたり、生き物を捕まえたりして、自然に興味を持って関わる姿が見られる。職員の実態としては、地域素材などには関わっている姿は見られるが、その反面で昔遊びやわらべ歌を学び実践する機会はほとんどない。

そこで、園内研修に昔遊びやわらべ歌の講師を招いて学ぶ機会を計画的に組み入れることにした。引き続き園児の姿を記録しながらドキュメンテーションを活用した保育の振り返りを行い、継続的・発展的な遊びに繋げ幼児理解を深めていく。また、園児が身近な自然や地域素材に興味を持ってかかわる中で、発見する事を楽しんだり、工夫して遊ぶ面白さを味わったりしながら、好奇心や探究心を育むための環境の構成や援助について探っていきたい。

II 目標

身近な人や自然、ものとの関わりの中で心動かされる体験を通して、園児の好奇心や探究心を引き出し、園児が遊びこむための環境構成や援助の仕方を工夫する。

III 方法・内容

- 1 お互いの実践を紹介することにより保育教諭の教育・保育力の向上を図る。
- 2 身近な自然・地域素材の活用を通して好奇心や探究心を育むための環境構成や援助の工夫について探っていく。
- 3 園児が心動かされる体験ができるような環境構成の工夫や援助の仕方を探る。
- 4 保育ドキュメンテーションを通して、保育内容の振り返り、及び可視化を図る。

IV 内容

(1) 主体的な園生活を営むために

- ①園児一人一人のありのままの姿を受け入れ、保育教諭と園児間の信頼関係を築く。

(2) 環境を通した教育を行うために

- ①園児の興味・関心や欲求等に応じ、自ら環境に働きかけたり、工夫したりして遊べるような環境づくりに努める。
- ②園児の発達の時期や、個々の実情を考慮した環境づくりに努める。
- ③園外保育を通して地域の豊かな自然や歴史文化に触れる機会を設ける。

(3) 指導計画の充実を図るために

- ①保育の記録やドキュメンテーションを基に幼児の発達する姿を捉え、指導の工夫や発達を見通す。
- ②個々の記録から幼児一人一人の特性や発達を把握し、発達の実情に即した指導計画の作成に努める。

(4) 家庭との連携を図るために

- ①園だより・園長だより・クラスだより・個人面談・ICT サービスのコドモン等を通して連携を密にし、教育保育への理解を深める。

V 園内研修年間計画

月 日	研 修 内 容
4 月	・ 園内研修 研修テーマ、園児の実態把握を基にテーマ設定等の検討
5 月 1 2 日 (金)	・ 5 園研修会 講師 名渡山よし乃先生 園内研修の進め方
5 月 1 8 日 (土)	・ 研修テーマの決定、研修計画の設定
5 月 2 7 日 (月)	・ 研修計画書の提出
	・ 保育実践
6 月 1 5 日 (土)	・ 園内研修 講師招聘「植物遊びについて」 大城幸子氏
7 月 2 0 日 (土)	・ 園内研修 講師招聘「わらべ歌について」 城間恵子氏
1 1 月	・ 生活運動発表会
1 2 月 2 0 (金)	・ 報告書提出
2 月 2 1 日 (金)	・ 5 園研修報告会

VI 構想図

幼児教育のめざすもの

生きる力の基礎となる

「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」

本園における教育及び保育の基本〈環境を通して行う教育〉

- 1、健康、安全など生活に必要な基本的生活習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。
- 2、集団生活（仲間同士・異年齢）での遊びや経験を通して、自立・協調の態度を養い道徳性の芽生えを培う。
- 3、広い園庭の中で、身近な自然に触れることを通して豊かな心情・知的好奇心を育む。

本園の教育目標

・進んで活動する子 ・心豊かな子 ・たくましい子

目指すこども像

- ① みんなで考え意欲的に遊び学ぶ力を育てる
- ② 相手を思いやる心や感動する心など豊かな感性を育む
- ③ 健康で安全に生活する力を育む

目指す保育教諭像

- ① 一人ひとりを温かく受け止め、共に学び共に育ちあう保育教諭
- ② 自己研鑽し、向上心のある保育教諭
- ③ 保護者や地域との連携を大切にする保育教諭

園児の実態

- 1、明るく、穏やかな子が多い
- 2、折り合いをつけることが難しくトラブルになることがある
- 3、自然環境や地域文化に興味関心をもつ園児が多い

保育の見直し・方法

- 1、園児理解に努める
- 2、園児の姿を読み取る（興味や関心、発達の理解等）
- 3、保育者の願い（こんなふうに育てほしい）
- 4、保育の計画を立てる（夢中になる遊びを考える）
- 5、環境の構成・指導の手立て
（遊びこむための環境構成や援助の工夫に努める）

保育の内容

- ・クラス全体で動く場面を多く取り入れた。例えば、ルールのあるドッジボールをする時間を多く持っている。初めの頃は、ボールの取り合いからトラブルになることが多くあったが、少しずつルールを理解しながら、ゲームを進めることが出来ている。
- ・室内環境の見直しを行い、地域文化にも親しみを持てるように綱引だけでなく、敬老会の際にマミドーマを披露したり、カンカラ三線を子ども達と一緒に製作することで、より沖縄の文化に興味を持つ様子が見られた。興味がある幼児は、カンカラ三線を使っていろんな曲を弾けるようになってきた。

事例1 「わらべ歌遊び」

〈園児の姿〉

- ・ 普段の保育の中で、在園児は昔遊びやわらべ歌に親しんでいるが、新入園児は、遊び方が分からずにとまどう姿が見られた。

活動の流れ ○園児の姿	◎環境構成 ☆保育教諭の援助・願い
○かごめかごめやはないちもんめなどの昔遊びをしているが、これまでの入園前の園でのルールがそれぞれ違い、トラブルになることがあった。 ○「自分たちの園のルールでやりたい！」 「こっちがあってるんだよ！」と なかなか遊びのルール決まらない。 ○「園内研修だより」を見て、「おもしろそう。 やってみたい」という子どもの声があった。 ○普段のジャンケン列車の遊びが、わらべ歌の「♪こーじゃー んまぐわ」になり、興味を示さなかった子も仲間に加わった。 ○先生たちの歌を見て 「おもしろい！一緒に踊ってもいい？」 と子どもたちも一緒に踊り盛り上がった。 ○おまねき会で祖父母と一緒に音楽に合わせて 楽しく踊る姿が見られた。 「こうやってやるんだよ」 と子どもが教える姿が見られた。	☆子どもたちも思いを丁寧に聞きながら、入園前のルールでやってみることになったが、戸惑いが見られた。 ◎子どもたちと遊びを振り返りどうしたらいいか話し合う場を設けた。 ◎そこで職員間で話し合い、講師を招いて、昔遊びやわらべ歌を学ぶことにした。 ◎「園内研修だより」で子どもたちや保護者も分かるように掲示した。 【わらべ歌あそび】 「♪な-み な-み わんわちゃくり」 「♪こーじゃー んまぐわ」 ◎今までは、わらべ歌に馴染みがなかった先生も保育の中で取り入れるようになった。 ◎毎週水曜日の「うたの会」で、職員が「♪とーるるん てんてん とーるるん てんてん」のわらべ歌を披露した。 ◎子どもたちが楽しむ姿から、普段の保育にわらべ歌を取り入れた。おまねき会の出し物の一つになった。

○普段の保育の中で三線や和太鼓を思い思いに触れ遊ぶようになった。  ○「先生、もっと三線あったらいいのに」三線に興味を示す子が増えた。 ○興味を示した子が保育者と共にカンカラ三線作りに夢中になる。  ○自分達のアイディアで工夫して色を塗ったり思い思いに作ることを楽しんでいた。 ○出来あがると思い思いにカンカラ三線を弾き楽しんでいる姿が見られた。 ○弾けるようになった曲を「みんなの前でやりたい」という声があった。	◎保育の中で保育教諭が三線を演奏した。 ☆生の演奏を聴くことで、沖縄の楽器にも興味をもってほしい。 ◎保育室に三線や和太鼓などを置き、子どもたちがいつでも遊べるようにした。 ◎職員で話し合い、カンカラ三線が作れるように材料を用意した。 ☆子ども達の姿から、できるだけ自分達で三線作りができるように、見守り、必要に応じて援助した。 ◎遊びの振り返りで、カンカラ三線を発表する場を設けた。 ◎帰りの会や給食のひと時に保育者が沖縄の民謡を三線で演奏し、興味をもてるようにした。 ◎職員で話し合い、披露する場を設けていく。
---	---

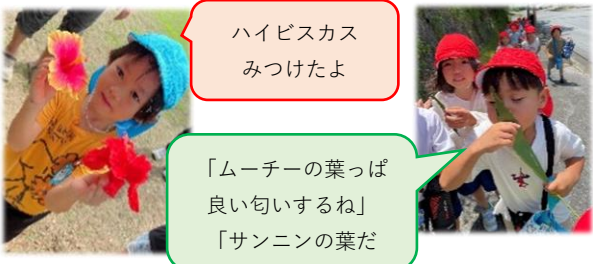
〈考察〉

- ・歌ったり体を動かしたりすることに苦手意識がある園児も、楽しく遊ぶ友達に刺激を受け、一緒に挑戦する姿が見られるようになった。その後、おまねき会の出し物として披露することで異年齢交流や祖父母との交流が深まった。
- ・自分達で決めたことにより、楽器作りや練習にも意欲的に参加する姿が見られた。また、楽器作りでは、自分たちが納得するまで色の塗り方や音の出し方など、試行錯誤する姿が見られ遊びこみにつながった。さらに完成した楽器や室内に置いてある他の楽器を大切に扱う姿が見られた。

事例2 「草花遊びを楽しもう」

〈園児の姿〉

草花や野菜に興味を示し、世話をしながら花の色や形、匂いなど嗅いでいる園児もいる。また、草花を使ってままごと遊びや色水遊びを楽しむ姿が見られる。

活動の流れ ○園児の姿	◎環境構成 ☆保育教諭の援助・願い
○草花を使っての色水遊びを楽しむが、草花の名前ではなく「紫色のお花がね～」「あっちにある草がね」と話すことが多い。 ○園庭で身近にある草花や散歩で見つけた草花に興味を示すようになった。  ハイビスカス みつけたよ 「ムーチーの葉っぱ 良い匂いするね」 「サンニンの葉だ」 ○園庭の草花を見つけては、袋に集め、色水遊びを楽しむようになった。 「ちょうまめの色が青くなったよ」 「ぼくのは、紫になったよ」 「水をたくさんいれたら青色が水色になって薄くなった」など、水や花の量で色が違うことに気付く。 「葉っぱ緑なのに、茶色になったよ」 「葉っぱはあまり色がでないよ」など、花の種類などによって、色の違いがあることに気付く。毎日のように遊びを繰り返していた。 「先生、この色水を氷にしたい！」 ○年長・年中は氷を使ってのジュース作り、年少は年長の氷を分けてもらい感触遊びを楽しむ。感触遊びの中で氷がとける不思議に気づく姿が見られる。  	◎子どもたちにも草花の特性を活かした遊びを楽しんでほしい。 ◎園長先生を中心に、子どもが五感に触れて遊べるように、四季を感じる草花や果樹、沖縄の木を植樹し、園庭環境を充実させた。 ◎教室内に図鑑や虫眼鏡などの観察コーナーを準備することで、子どもたちが疑問に感じたことなどをすぐ調べられるようにした。 ◎透明の容器やすり鉢、手袋、ビニール袋など様々な素材を用意し、様々な草花遊びが広がるようにした。 ☆子どもたちの気付きや発見に共感し、発表の場を設けることで、子どもたちの中で湧き出た疑問に対し、みんなで考えることができた。 ◎ドキュメンテーションを園に掲示することで、日々の子どもの活動の様子を保護者にも共有していけるようにした。 ◎どうしたら氷を作れるのかを一緒に考えていき、製氷器や冷凍庫など、必要なものを準備する。 ◎さらにひろがるように下記の遊びを子ども達と用意した。 ・色水遊び ・ジュース屋さん ・爪紅あそび ・花氷作り ・野菜、お花スタンプ ・版画 等

キレイなお花集めたからお部屋に飾ってもいい？



- ジュズサンゴを使って爪を赤く染めたり、ハイビスカスの花びらを鼻にくっつけてりして遊ぶ姿が見られるようになった。
- バナナの花の大きさ比べをしたり、バナナ収穫のお手伝いをする姿が見られた。



頭に
乗せて
みたよ



どうやってら
バナナとれる？

- 草花を摘んで集めている時に、
「先生、サンニンの葉と桑の実の葉をくっつけたらウサギの顔に見えるよ」と気づいた子を筆頭に、身近にあるものを探し、組み合わせての版画遊びが始まった。

草花を使つての 版画あそび



◎お花を教室に飾ったりすることで、草花に興味をもったり、図鑑などですぐに調べられるような環境づくりを工夫した。

◎教室に子どもたちの活動の写真を掲示し、草花の遊び方を視覚化することで、興味をもてるようにした。

◎バナナの花の大きさや匂い、触感、重さなどを感じられるように「花の大きさはとっても大きくて帽子みたいだね」「匂いはどんな匂いをするのかな？」など子どもたちの気づきや思いに共感しながら、伝えていく。

◎子どもたちと一緒にバナナを収穫する方法を考え、必要な道具を用意する。子どもたちが挑戦する姿を見守る。

◎遊びの振り返りの中で、子どもたちの発見を発表してもらい、他にどのようなもので、どんな形を作れるのかを想像し、意見交換の場を設けた。

☆版画遊びに必要な道具や素材等を多めに準備しておく。ゆとりを持って活動に取り組めるように時間の確保をする。

◎完成した版画を帰りの会などで発表することで、いろんな素材を使ったやり方や色の使い方、混色など、様々な表現方法に興味をもてるような場を設けた。

〈 考察 〉

・自然との触れ合いの中で、様々な事象に興味や関心をもつことで、友達との会話が増えていったと感じる。また、場や機会を捉えて個々のつぶやきや動きを共有することで、あまり興味を示していなかった子も次第に一緒に観察したり、自分なりの発見を楽しんだりする姿に繋がった。

事例3 「お米作りに挑戦しよう！」

〈園児の姿〉

- ・夏野菜の栽培・収穫、クッキングを通して栽培物や飼育生物に興味をもつ子どもたち。その中で、自分たちが普段食べている食べ物はどのように育つのか疑問に感じ、身近な大人に質問したり、絵本や図鑑を見て調べる姿が見られた。

活動の流れ ○園児の姿	◎環境構成 ☆保育教諭の援助・願い
○夏野菜を栽培中、子どもたちより「お米ってどうやって出来るんだろう？」との声が上がった。 「畑じゃない？」 「違うよ！水のいった畑にあるんだよ！」と子どもたちからいろんな声が上がった。 ○絵本や図鑑を通して稲作方法を知る。 ○梅雨時期だったこともあり、穴の中に雨水が溜まると、泥遊びや船などの製作遊びが展開した。 Kさん「船、水に浮かんだよ」 Yさん「でも動かないね」 Tさん「スコップで水を叩いたら前に進むよ」 Rさん「風の力でも動くよ」 Rさん「段ボールは水に沈んじゃった」 Yさん「なんでだろう…？」 Hさん「いろんなものを水に浮かべてみよう」 	◎子どもたちの疑問の声からお米の栽培方法についてみんなで話し合う場を設けた。 ◎子ども達自身で調べられるように稲に関する絵本を絵本コーナーに用意した。 ◎お米作りについて職員間で疑問があがり、稲作発祥の地「受水走水」に見学に行った。 ◎保護者に協力してもらい、PTA 作業で園庭に田んぼ用の穴を掘ってもらった。 ◎製作活動用の廃材や道具等を教室内に準備しておく。 ☆子どもたちの気付きや発見に共感し、発表の場を設けたり、ドキュメンテーションを掲示したりすることで、子ども達の中で湧き出た疑問に対し、みんなで考えることができた。
○遊びの中で木の枝や発泡スチロール、段ボールなど、どんな素材が水に浮かぶのか、どうすれば船が前に進むのか等、意見を出し合って子どもたち同士で創意工夫する様子が見られた。 たのしい～♪ 	☆自分の思いや考えを伝え合い、素材の性質に気付き試行錯誤しながら進めることができる。 ☆困り感を共有し、一緒に考えることで様々な意見を出し合い、そこからまた遊びが展開できるような声かけや援助を行う。

田んぼに土を入れる

○「土って重たいね」「濡れているからじゃない？」と友達と協力し合いながら土を運ぶ姿が見られた。



生長した稲を田んぼに植える

○園長先生から田植えの仕方を教わり、実際に子どもたちで田植えを行った。ゆかるみに足を取られながらも頑張って植える姿が見られた。
「泥んこ気持ちいい」「べちゃってしてて気持ち悪い」「土に足が入って転びそう」と、会話をしながら楽しく田植えをする姿が見られた。



経過観察（7～8月）

○園庭あそび中に田んぼを見に行き稲穂の成長を観察する子、田んぼに集まったトンボやヤゴ、カエルの卵などを見つけ虫捕り等を楽しむ姿が見られた。
○生き物に対しての好奇心や探求心が深まったことで、昆虫の命を大切にしようと姿が見られた。虫眼鏡を使って昆虫を観察したり、図鑑で調べたりして新しい発見につながっている。

稲刈り体験

○地域の方から稲刈りや鎌の安全な使い方を教えてもらう場を設け、初めての稲刈りに挑戦した。



◎乾いている土と雨に濡れた土の重さの違いに気づく姿が見られた。

◎泥遊びが落ち着いた頃、田んぼにブルーシートを敷き、子ども達と一緒に土をかけ、田んぼが完成した。

☆友達と言葉で伝え合い、相談しながら進めてほしい。

◎ドキュメンテーションを通して、家庭にも子どもたちの稲植えの様子や気づき、友達同士の会話の様子を伝える。

☆泥の感触が苦手な子に対しては、すぐに足を洗える環境を整えたり、田んぼの外から植えられるよう援助を行う。

◎室内に生き物コーナーを準備することで、図鑑で捕まえた昆虫を調べながら観察したり、お世話する姿が見られた。

◎昆虫が食べる食草にも興味を示し、園内に生えているか探索する姿が見られた。

☆生き物コーナーに図鑑や虫眼鏡、飼育の様子の子のドキュメンテーションを掲示することで、虫に興味を示さない子も興味を示すようになった。

◎地域の方の協力を仰ぎ、鎌の安全な使い方を教わる。

☆子どもたちの稲刈りを見守り、困っている時は援助を行う。

だっくく とうみ
脱穀・唐箕（地域人材活用）

○収穫した稲を脱穀し、^{もみ}と^{くき}に分ける。

地域の方に脱穀の方法を教わった。

「お米がぴょんぴょん跳ねてるよ」

「回転する板に当てて分けるんだよ」

○園長先生と一緒に唐箕を行う

粃と粃殻に分ける

園長先生「足の力で風を起こして、粃と粃殻や

小さなごみを分けているんだよ」

Rさん「本当だ！風で飛んでってる！」

○機械の仕組みに興味を持つ姿が見られた。

○粃と粃殻が分かれる様子に喜ぶ姿が見られた。



精米～おにぎり作り

○「家のお米は白いのに園で取れたのは茶色だよ」

「なんかザラザラしてるよ」

など家庭で食べているお米と収穫したお米の色の違いや触感に気づく姿が見られた。

○おにぎり作り



〈お米を研ぐ〉



〈量る〉



〈炊飯〉

○給食時間に実際に食べてみる。

・ 1つ目は、自分たちが栽培したお米で作ったおにぎり。

・ 2つ目は、いつも給食で出てくるお米で作ったおにぎり。

○自分たちで育てたお米の味や匂いを感じながら、喜んで食べ、おかわりしている。

おいしい



◎昔ながらの道具を使い、脱穀の仕方を知り、体験を通し伝統的な仕方を知る。

☆子どもたちの疑問に耳を傾け、地

の方に質問しながら脱穀を行うことで、興味関心を共有した。

脱穀指導
具志堅さん



◎帰りの会や振り返りの場で子どもたちの気づきや発見を共有する場を設けた。

◎おにぎりの具材を自分たちで決めることで、食に興味をもたない子もおにぎり作りに期待をもてるようにした。

◎精米して、玄米から白米になったお米の違いを見比べてみる。



〈精米前〉



〈精米後〉

☆お米の匂いや色、研いだ時の触感など、その都度感想を聞きながら楽しい雰囲気の中クッキングをする。

考察

・栽培活動を通して、日頃自分たちが食べている食材がどのように育ち、食べられるのかを知ることが出来た。栽培活動の経験を通して、苦手な食材を頑張って食べようとする姿が見られるようになった。一方で、個人差に配慮しつつ、家庭とも連携を図りながら食への意欲に繋げていけるようにしていきたい。

実践事例4 「みんなで綱引きをやりたい！」

〈園児の姿〉

・地域で行われている綱引きに参加し、楽しかった思い出を友達同士で共有することで「こども園

でも綱引きをやりたい！」という声が上がった。その子どもたちの意見から綱引きをやる為にはどうすればいいのかを一緒に考え、脱穀の際に出た稲の茎（藁）を使つての綱づくりが始まった。

活動の流れ ○園児の姿	◎環境構成 ☆保育教諭の援助・願い
○地域の綱引きに参加した子ども達から、 「綱引きをやりたい！」と声が上がった。 ○「綱は何で作ればいいの？」 「枯れた草じゃない？」 「藁を使って作るんだよ」 「それじゃあ稲で出た藁を使おうよ！」と 子どもたちの意見を聞きながら、保育教諭も 一緒に綱の材料探しが始まり、稲の茎が乾燥 した藁を使い、綱を作ることに決まった。 ○「どうやって綱作ってる？」 「ねじねじ巻いているんじゃない？」 「違うよ！三つ編みしてるんだよ」 それぞれの意見を出し合う姿が見られた。	◎地域で行われた綱引きの思い出話を発表し 合い、友達同士で共有する場を設ける。 ◎学年集会でも綱引き作りに対しての思いや 意見を伝え合う場を設け、その中で綱作りには 何が必要なのかを考えた。 ◎全体集会を見て綱づくり方法を年長組の 4クラス間で共有した。 
○綱づくりに挑戦 「どうやってやるの？」 「ねじるのが難しい…」 「3人でくるくる回ったらできたよ」 年長4クラスが協力して1本の綱が完成。  ○三人一組で行うことで、難しくてもお互いに 言葉で教え合い、協力しながら編んでいる。	◎実際に職員が実践して見せることで、子ども たちの“やってみたい”という気持ちにつな がるようにした。  ◎子どもたち一人ひとりが自己発揮し、友達と 協力しながら刺激を受け、楽しく取り組める ように学年間で連携を取る。 ◎子どもたち同士でのやりとりを見守りなが ら、必要に応じて仲立ち、作り方を一緒に考える。

○「藁もお米の味するのかな？一回食べてみよう」と、実際に藁をかじっている。
「葉っぱの味だね」
「…おいしくない」と友達と意見を共有している。



○綱が完成したことで「大変だったね」「手が痛くなった」「すごく長いね」と喜びを共有する姿が見られた。

○運動生活発表会の時に縄跳びチームの園児から「大縄跳びをする時に綱を使いたい」と声が上がった。

「大縄跳びする時に使いたい！」

「でもみんなで飛んだら止まっちゃうよ」

「だったら3人ずつなら飛べるかな？」

「やってみないとわからないよ」と、

子ども達同士、どのように綱を使うかを相談し、4名ずつで飛ぶことに決まった。

○運動生活発表会では、実際に大縄跳びに挑戦することができ、喜ぶ姿が見られた。

○運動生活発表会后、みんなで綱引き勝負をしました。

「もっと強く引っ張ってー」

「頑張れ！頑張れ！」

「おもたい～」

と、楽しみながら勝負をする姿が見られた。

◎一人ひとりのイメージや思いを受け止め、共感しながら関わる。

◎自分たちで遊びを進めていく楽しさや充実感、満足感が感じられるよう見守り、必要に応じて援助する。

◎運動生活発表会の縄跳びチームでどのように綱を使って表現するかを話し合った。

そして、縄跳びが好きな子は縄跳びで表現し、苦手な子は綱の上を飛び越えたりくぐり抜けたりすることで表現することに決まった。

◎運動生活発表会では、自分で作った綱を使って表現したことに喜ぶ姿が見られた。



◎綱引き対決では、異年齢交流として全学年交えての綱引き勝負を行った。

〈考察〉

- ・地域行事の中で心を動かされる体験を通し、興味が深まり、「知りたい」「やりたい」思いが出て身近な人の話を聞いたり、友達と自分の思いや考えを伝え合ったりする姿が見られるようになった。
- ・園児の遊びの様子から必要な素材を用意したり、活動できる場をすることで、友達と一緒に試したり、工夫したりしながら、時間をかけて綱引き作りに取り組むことができた。
- ・友達と一緒に協力して作り上げることで友達関係を深まり、周りの人にも伝えたい思いが生まれ、見てもらい、認めてもらう喜びや達成感に繋がった。

《研究の成果と課題・改善策》

- ・地域素材の活用や身近な環境を取り入れた遊びや活動を通して、園児が遊び込むこむための環境構成や援助の工夫やそれらを継続的に取り組むことで、地域行事や昆虫の飼育、野菜の栽培・観察などに興味関心をあまりもたなかった子ども、次第に興味関心をもち始める姿が見られるようになった。
- ・戸外での虫探し、虫捕り遊びで探究心が中断しないように、すぐ手に取れるところに図鑑や虫眼鏡などを準備すると共に生き物コーナーを充実させたことで、子どもたちの興味や好奇心が高まり探究心にもつながった。そのことを通して、環境構成や保育者のちょっとした仕掛けや子どもと一緒に追及していくことが遊びこみにつながるために大切なことだと改めて感じる事ができた。
- ・地域素材や地域行事を活かした遊びや活動を子どもたちの声を取り入れながら進めていくことで、子どもたちが意欲的に参加し、話し合いを重ねながら主体的に遊びや活動を展開していくことができた。
- ・子ども一人一人の興味関心や友達との関わりなど、幼児理解を深めて、一人一人が自己発揮できるような環境構成や援助の工夫を取り入れ、友達と関わりをもちながら、より深い人間関係を築き、主体的な遊びが展開できるように保育・教育の質の向上に努めていく。